

# 那覇第2地方合同庁舎 3号館が完成

～那覇第2地方合同庁舎の全ての整備が完了しました！～



那覇第2地方合同庁舎全景（左から1号館、2号館、3号館）



令和5年と昭和52年の那覇新都心（国土地理院の空中写真より作成）

那覇市おもろまちにおいて整備を進めていた那覇第2地方合同庁舎3号館が完成しました。

那覇第2地方合同庁舎のある那覇新都心の一帯は、戦後米軍住宅地でした。昭和62年に全面返還され、土地区画整理事業が行われました。平成11年には、那覇市により、機能的・空間的に連携を図り、魅力と賑わいのある都市空間を形成することを目標として那覇新都心シビックコア地区整備計画が定められました。

この計画の理念のもと、那覇第2地方合同庁舎の整備が進められ、1号館が平成15年に、2号館が平成20年に完成し、この度3号館が完成しました。これにより、那覇第2地方合同庁舎の整備が全て完了し、また、那覇新都心シビックコア地区の全ての整備が完了しました。



△ 事務室



△ キャノピー



△ エントランスホール



△ 車庫（マンホールトイレ）



△ バス待合所（かまどベンチ）

3号館には、沖縄総合通信事務所、沖縄地区税関、沖縄気象台、沖縄総合事務局南部国道事務所が入居します。これらの官署はもともと分散していましたが、それぞれの施設が耐震性不足や老朽化等の問題を抱えていたことから、災害応急対策活動の拠点としての耐震安全性を確保した3号館を整備し、これらの官署を集約しました。

整備にあたっては、地域の意見を反映させるため、那覇市と琉球大学の有識者からなる地域連携検討会を開催しました。また、ユニバーサルデザインの観点から設計を見直すため、高齢者や障がいの方々にご協力いただきユニバーサルデザインレビューを実施しました。さらに、おもろまち自治会の方々には庁舎整備に向けたアンケートにご協力いただきました。

室内は、大空間をつくるプレスト

レストコンクリート梁を使用して柱を少なくすることで、フレキシブルに使えるように計画しています。また、環境負荷低減を目的として、太陽光パネルやLED照明等の採用、庇・ルーバーによる日射の抑制・熱負荷の低減など様々な取組を行っています。

外構は、人通りの多い東側（中環状線側）に歩行者空間を確保し、1号館から3号館までを繋ぐ通路（キャノピー）は市民の方が自由に通り抜けができるようになっています。外構やキャノピー上部には緑化を施し、新都心公園から緑が連続した街並みを形成しています。

大規模災害の発生時には、エントランスと外構部分を帰宅困難者の一時的な滞在スペースとして使用でき、エンタランスでは気象などの災害情報を得られるようになっています。また、車

庫には災害発生時でもトイレ環境を確保するためのマンホールトイレを、バス待合所には炊き出しに使用できるかまどベンチを設置しています。

結びにあたり、業務・工事受注者の皆さまのご尽力はもとより、3号館に入居予定の官署の皆さま、工事中にご不便をおかけした近隣住民や1・2号館に入居している皆さま、そして、整備内容に関してご意見を頂戴しました多くの皆さまに、長期間にわたりご理解とご協力をいただきましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

## お問い合わせ先

開発建設部 営繕課

☎ 098-866-1916